2024
隣保館だより
9月号

福祉と人権のまちづくり

NO. 370
発行・編集
鹿沼市隣保館
鹿沼市万町 931-1
TEL0289-64-4776

鹿沼秋まつり
10月12･13日

ウエルフェア in かぬま 2024＆福祉と人権のつどい

10月27日（日）、『ウエルフェア in かぬま 2024＆福祉と人権のつどい』を、南部地区会館、隣保館、総合福祉センターの３館合同で開催します。

期　日　10月27日（日）9:30～14:00

会　場　鹿沼市総合福祉センター（万町931-1）他
駐車場　こじか保育園（約50台）
内　容　①　9:30～10:00　式典
②10:00～10:30　演芸発表
③10:30～11:30　講演会（50名程度）
『東日本盲導犬協会出張講演・歩行体験会』（無料）
④11:30～11:45　焼きそば・お楽しみ菓子袋販売
⑤11:45～12:45　ビンゴゲーム大会
⑥12:45～14:00　参加者休憩・ご歓談

※野外テントでは、10時頃から、野菜・小物販売、無料の子供向けイベントや健康測定も出店予定です。ご家族やお友達もお誘いあわせの上、ぜひ、お出でください。

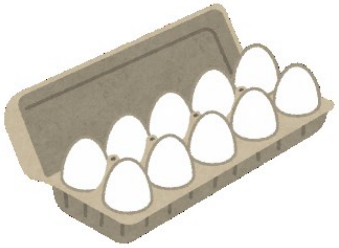
問合せ　南部地区会館　TEL65-5764

隣保館では、野外で「ピンポン玉つかみ取りチャレンジ」や、２階で「レクリエーション協会による催し物」、「人権パネル展」を行います。（午前10時～）

ピンポン玉
つかみ取りに挑戦！

箱に入ったピンポン玉を片手でつかみ、つかんだピンポン玉の数だけ「新鮮な卵」をプレゼント。奮ってご参加ください。

※小学生以下優先、１人１回限り、卵がなくなり次第終了。



学校では教えない差別と人権

第６回高齢者ふれあい事業が、８月 29 日（木）、参加者２５名で行われました。８月は人権教育・啓発推進県民運動強調月間にちなんで、講師に部落解放同盟栃木県連合会 戸田 眞書記長を招き、**「学校では教えない差別と人権」**と題して、お話を聴きました。

戸田さんは、最初に自らの被差別体験を語り、次に部落差別が形成されてきた歴史を振り返りました。天皇・貴族中心の世の中であった平安時代、疫病や死に対する恐怖や穢れを祓う（清める）人が求められ、その役割を担った河原者が今日の被差別部落の源流であると説明。

銀閣寺の庭園をつくった庭師・善阿弥、能を大成した観阿弥・世阿弥、治安を守る警刑夫（今の警察）など、様々の仕事に河原者が携わっていたと紹介しました。戦国～江戸時代に近代的身分設定がされたあとも、皮革づくり（皮役）のほか芸能（歌舞伎）や牢番、医業と多種多様な職業に従事してきたが、その歴史的背景は知らされておらず、ただただ「穢れている・人が嫌がる役務」と現在も市民の忌避意識として残り、インターネットなどで否定的イメージが拡散され、部落差別が社会問題として存在していると話されました。

子どもたちへの人権教育として、正しい歴史と差別の現実を伝えることが大切であると語りお話を締めくくりました。参加者の皆さんも熱心に耳を傾けていました。

貧困撲滅のための国際デー

毎年 10 月 17 日は国際連合が制定した**貧困撲滅のための国際デー**です。

1987 年、極度の貧困や飢餓・暴力などの犠牲者に敬意を表すため、10 万人を超える人々が、パリの人権広場に集まったのがはじまりです。

世界では、現在、約７億人が、極度の貧困の中で生活を送っています。（2023 年）年間 503 万人（毎日 13,800 人）の子どもたちが、５歳の誕生日を迎える前に予防可能な死因で命を落としており、その約半数は、生後 28 日以内の新生児です。

また、貧困問題は途上国の問題と捉えがちですが、日本国内においても、ホームレスや子どもの貧困が増加しています。日本の貧困率は、15.4％、６人に１人の割合。子どもは、９人に１人が相対的貧困という結果が出されました。貧困撲滅のための国際デーに、今の自分に出来ること、何か考えるきっかけの日にしませんか。

＊貧困とは、国連機関の UNDP では「教育、仕事、食料、保健医療、飲料水、居住、エネルギーなど基本的な物・サービスを手に入れられない状態のこと」を貧困の定義としています。